

【団体名】 NPO 法人打楽器コンサートグループ・あしあと

事業報告書

<p>事業名</p>	<p>こころに響く打楽器つくっちゃお♪</p>
<p align="center">【計画時の事業内容】</p> <p>一緒に作る 30分【作る・創造する】 子供たちが創作する楽器の飾りつけは色とりどり、多種多様な、部品は団体手作りのものを用意し、世界に一つだけのオリジナル楽器を作る。また同じ太鼓でも、打面の素材の違い、バチの違い、大きさの違いで打楽器は音が変わってくる。いろんなもので製作し、音を確認、自分の好きな音を創造し、近づけることで、手先の作業と聴力、想像力を結びつけ、学校の図工などでは出来ない工作が楽しめる。親子、子供同士、地域の方々、当団体スタッフなど、あらゆる世代の方と話しコミュニケーションの場を設ける。安心できる場所作りの周知の手助けも行う。小学生以上でも満足出来る、作品製作自体の難易度を高め、よりオリジナル性を高める。</p> <p>コンサート 30分【聴く・見る・歌う・踊る】 近年の学術的研究結果でも、子供の脳の発達には聴覚・視覚に同時に体験させるのが効果的と出ており、打楽器はピアノなどの楽器と違いバチの動きや手の動きなど視覚効果も高い。 また、教育機関の中でもなかなか出会えない珍しい世界の打楽器を紹介することで、打楽器に興味を持たせる。そして、情操教育を生きた音楽から感じたい、精神疾患を抱えた子供のために何かしてあげたいとの声が多数であるため、本格的な打楽器コンサートの提供が子育ての現場には必要である。乳児や小さい子供ほどコンサートに触れさせる事が重要になってくる。</p> <p>体験コーナー 20分【リズムに合わせる・体験する】 子供たちが作った作品を使って、プロのミュージシャンと打楽器コンサート参加、全員と一緒に演奏する打楽器は遠くに響かせることも出来るので、マイクなど電子機器を使わなくても生の音で100人以上が一体になって演奏することが可能。自分の作ったもので演奏することで達成感を得られる。 また、誰にでも音が出せる特徴を利用し演奏家が使ったプロ仕様の本物の楽器を最後に体験する。本物の楽器の響きの豊かさ・音色の色彩を自分で演奏して体験してコンサートを締めくくる。</p> <p>実施時期・スケジュール・場所 2019年7月 委託金交付決定 2019年7～9月 施設との挨拶、日程打ち合わせ・その他詳細を打ち合わせ選考・決定 小規模で必要に迫られる施設選出、</p>	<p align="center">【実施結果(成果)】</p> <p>こころに響く打楽器つくっちゃお♪3公演</p> <p>【出演者】 NPO 法人打楽器コンサートグループ・あしあと 池野ひとみ・半谷麻意子・神本愛子・浜谷安里の4名</p> <p>【事業実施運営スタッフ】 弊法人メンバー8名</p> <p>【当日流れ】 内容は事業計画通りに行えた。</p> <p>一緒に作る 30分【作る・創造する】 タンバリンを制作。障害の程度によって完成具合を変えて配る。タンバリン完成後、各々飾りつけを行う。</p> <p>コンサート 30分【聴く・見る・歌う・踊る】 曲目は準備された20曲の中から、知的障害などに合わせ当日決定する。本当の年齢でなく、知的障害によって好む曲や演出が違うので、曲だけでなく演出や内容も変化させる。また楽器紹介や楽器にまつわるクイズなど、音楽教育的な視点も盛り込む。コンサートの最後には作った楽器を持って一緒に合奏する。</p> <p>体験コーナー 20分【リズムに合わせる・体験する】 最後に演奏家の使った本格打楽器を体験する。全ての楽器が体験できる。 木琴(マリンバ)、鉄琴(ヴィブラフォン)、ドラムをはじめ世界の珍しい楽器を何十種類の体験をする。</p> <p>障害の中には聴覚過敏もあり、ドラムの音が苦手などがある。その子供たちは木琴(マリンバ)などは大丈夫であったり、小物の打撃音のしないものは体験できたりする。 また音楽を聴くのが苦手な子も工作を楽しめたり、楽器体験を楽しめたり、聴くだけでない本公演ではその3つの項目のどれかで楽しむことが出来たりした。</p> <p>実施時期・スケジュール・場所 2019年7月 委託金交付決定 2019年7～9月 施設との挨拶、日程打ち合わせ・その他詳細を打ち合わせ選考・決定 小規模で必要に迫られる施設選出、コラボ企画のマッチング アレンジ・リハーサル開始 2019年9月13日 13:00～14:30 社会福祉法人ともかわさき すえなが 施設利用者約50名、その保護者10名、施設スタッフ20名の計80名 2019年10月22日 10:30～12:00 放課後デイサービス JOYKIDS1号店 施設利用者20名、その</p>

<p>コラボ企画のマッチング アレンジ・リハーサル開始</p> <p>2019年9～1月 順次コンサート開催 障害者支援施設・障害児をもつママの会、地区センター、療育センター等計3公演</p> <p>対象者・募集方法 障害者施設入居者、通所者、障害児をもつママの会会員、また施設、サークル見学者など 各施設、また施設関係者にチラシ各公演500部程度を配布、その他 SNS、当団体 HP、Facebook での公募(各公演親子20～30組程度)</p>	<p>保護者 5 名、施設スタッフ 10 名の計 35 名 2020年2月22日 13:00～14:30 放課後デイサービス夢門塾 施設利用者 8 名、その保護者 2 名、施設スタッフ5名の計 15 名</p> <p>訪問施設計 3 か所 動員 130 名</p> <p>対象者・募集方法 障害者施設入居者、通所者、またその保護者 各施設、また施設関係者にチラシ各公演500部程度を配布、しかし3施設全てその施設利用者と保護者のみということで SNS 等での宣伝はしなかった。 また感染症などに弱い体質の子が多いため、2 月公演は欠席者が多数いた。</p>
--	---

【計画時の事業目的(取組課題)と実施効果】	【実際の効果と課題】
<p>事業目的(取組課題) 様々な障害を持つ子供たちとその母親、保護者にスポットを当てたイベントにする。 オリジナル打楽器を作り、その楽器と共に生の本格打楽器を気軽に楽しむ体験型コンサート。見る、聴く、触る、そして、作るという項目を加え、五感に刺激し、子供の成長過程と一緒に音楽アートで楽しむ日とする。イベントに出かけられない状況下で問題を抱えている児童達と共にその保護者の集まる施設に出張する。 子供たちが創作する楽器の飾りつけの色とりどり、数百種類のパーツ飾りつけを団体手作りで用意し、世界に一つだけのオリジナル楽器を作る。「大人と子供が協力しアートする日」「子育て中のママが癒される日」「同じ障害を抱える母同士がコミュニケーション出来る日」を設ける。 プログラムは子ども達に親しみのある曲を演奏し、オリジナル製作打楽器とのコラボレーションも行う。プロが使っている本格打楽器(マリンバ、ビブラフォン、ドラム、民族楽器の類など)に触れてみる機会も設け、本物の楽器の迫力を気軽に体験してもらう。</p> <p>実施効果 打楽器は振動がとても大きいので耳が聴こえなくても音を感じることができる。またピアノなどと違いパチや手元の動きが大きいので見ても楽しむことができる。また手作り楽器も傾けても音が出るため障害の度合いに合わせ、手が効かない子には傾けて、持てる子には振って、叩ける子には叩いて音を出して一緒に合奏する。どんな子供たちも同じ曲で最大限できることで一緒に演奏することができる。</p>	<p>事業目的(取組課題) 様々な障害を持つ子供達、その保護者、また保護者代わりの施設スタッフにスポットを当てたイベントとなった。 施設利用者は 6 歳から 50 歳まで様々な年代の方に公演をお届けできた。 障害者作業所と放課後デイサービスと違った形式の施設に訪問する。 どちらもじっと座っていたり、声を発さずにコンサートを聴くことが出来ない方もいてイベントに出かけるのは困難。 しかし、ほとんどの方が音楽が大好きで、自然と踊りだしてしまったり、歌ったり、叫んだり、生の音楽に興奮していた様子が見てとれた。 また工作の時間、タンバリンへの飾りつけは、触り心地でキットを選ぶものや、光り具合で選ぶものなど、独創的な作品に仕上がっていた。 叩いたことのない楽器に興奮し力加減が出来なくても、やわな楽器ではないので、全員が抑制されることなく思いのままに叩いていた。 一般のイベントにはなかなか参加できない、公共の乗り物に乗れないなど、出かけにくい方もたくさんいたが、馴染みの施設内で馴染みの顔ぶれで緊張することもなく音楽、楽器制作、楽器体験をすることが出来た。 どの施設もまた来年も、、、とお声がけを頂いた。</p> <p>実施効果 今回訪れた施設は重度障害者の場所はなかったため、手が動かない、パチが持てないなどはなかったが、聴覚過敏のお子さんは何人かおり、音楽が苦手な子もいた。 しかし打楽器には打撃音でなく風のような音や動物の鳴き声の楽器などもあり、それらの楽器を同じように楽しんで体験することが出</p>

また、手作り楽器は派手な色のキットやもこもこの手触りのキットなど、弱視の子にもわかるものや、目が見えなくても手触りの違うもので楽しめるようにする。

打楽器のアナログな音楽の生演奏の迫力を感じ、親子で協力するオリジナル作品作りは、非日常的な空間でありながら、日々忙しく追われる子育ての1日が「親子で笑顔の日」となることができる。悩みや問題を抱えている母親、保護者、保育者、音楽を通じて集まったそのイベントにいるすべての人が一体となり仲間意識が芽生える。母親同士の関わり、施設の人との関わり、あらゆる「社会との関わり」が出来、子育て情報や障害についての情報を得る機会となる。また、イベント開催することによって社会・行政の方から子育てに困難を極めている母親達に気づく可能性が高まる。母親たちはこれを機に悩みを共有できる仲間作りや、相談やカウンセリングが出来る機関を知るきっかけとする。子育てで安心・安全な居場所を知ってもらおう。音楽が呼んだ大きなイベントを様々な人、団体が協力し合って作りあげることによって、地域間の交流に役立ち、子供・母親を孤立させないみんなで見守るこれからの子育ての形を目指す。

来た。また手作りタンバリンは各々光り具合、触り具合など違う視点でキットを選び接着していた。

親子、または保護者代わりの施設スタッフと協力して作品を作り、また音楽が苦手、工作が苦手、体験が苦手、、、と何かが出来なくても音楽は好き、工作は好き、体験は好き、、などどれか好きな項目、やれる項目で同じ空間を共有できた。

アンケートからも概ね好評を得る。

今回施設利用者、その保護者、施設スタッフの交流は出来たが、広く地域の方や行政スタッフなどの公開は施設側のNGになってしまった。

また放課後デイサービスは場所の広さの都合上、参加者に上限があったりした。施設利用者が遠慮なく、安心して聴ける環境で音楽や公演を楽しんでもらうのが本望だが、そうなると広く公開は厳しくなるし、子供達も緊張の元になってしまう。

今回は子供達の音楽を楽しむ環境を第一優先とし、公演を決定したが、少人数でも地域の方や行政スタッフなど、地域と障害者、保護者と行政サービスなどの情報交換の一端が担えればと強く願う。

初年度としては公演を無事行う事は出来たが、より深い内容のもの、音楽以外の橋渡しが今後の課題。

また継続的に深くしていく、継続的に広くしていく、そのための資金調達が最大の課題となる。